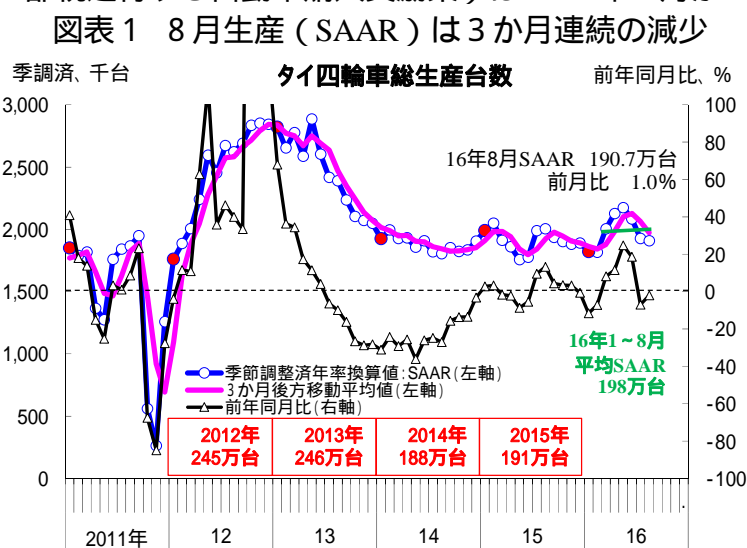


タイ自動車市場月次統計（2016年8月）

国内販売は底堅く推移しているが、輸出減速が国内生産の足を引っ張る状況が続く

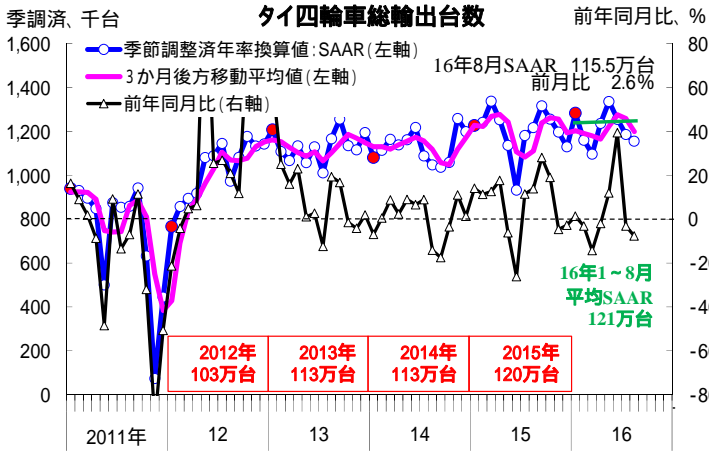
国内販売は年率 70 万台後半で踏みとどまっており、底堅さが感じられる

- ・タイ工業連盟(Federation of Thai Industries)が発表した2016年8月の四輪車総生産台数は、前年同月比2.0%減と2か月連続の前年割れとなり、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)も前月比1.0%減の190.7万台と3か月連続で減少した(図表1)。国内販売は底堅く推移しているが、輸出の減速が足を引っ張る状況が続いている。なお、16年1~8月の生産台数の平均SAARは198万台と、引き続き前年実績191万台を上回っている。もっとも、今後も底堅い国内販売と減速が続く輸出が綱引きをする神経質な展開が続く見通しである。
- ・8月の総輸出台数は前年同月比7.6%減と2か月連続で前年割れとなり、SAARも前月比2.6%減の115.5万台と3か月連続で減少した(図表2)。原油及び資源価格の下落を起因とした中近東及びアフリカでの景気悪化が、タイの自動車輸出に強い逆風となっている。16年1~8月の輸出台数の平均SAARは121万台と、前年実績120万台を超える水準を維持しているが、直近のSAARは2か月連続で120万台を下回っており、足元の減速基調が続く、16暦年の輸出台数が120万台を割る可能性には引き続き要警戒である。
- ・8月の国内販売台数は前年同月比2.6%増と2か月ぶりに前年超えとなった一方で、SAARは前月比1.6%減の78.9万台と減少した。(図表3)。16年1~8月の国内販売の平均SAARは77万台と15暦年実績(80万台)を下回っており、直近の8月の販売台数には一服感もみられているが、年率70万台後半での一進一退にとどまっており、底堅さが感じられる。タイの国内景気は依然低調だが、8月の消費者信頼感指数は2か月連続で上昇しており、景況感の改善が国内販売の下支え要因のひとつとなっている(図表4)。
- ・国内景気の低迷は引き続きタイ国内販売の下押し要因となるが、本年9月以降に買い替え需要が盛り上がることで内需回復を牽引する見通しである。インラック政権によるFirst Car Buyer Programme(初回購入者に一部税還付する自動車購入奨励策)は2011年9月から12年12月まで実施されたが、減税条件は5年間の保有であるため、同プログラム開始からちょうど5年後の本年9月から買い替え需要が発生することとなる。
- ・買い替え需要の増加を背景とした国内販売の回復が、マクロ景気悪化に伴う輸出減少を十分に相殺することで、国内生産を再浮上させるか否かが、タイ自動車市場の目下の注目点である。



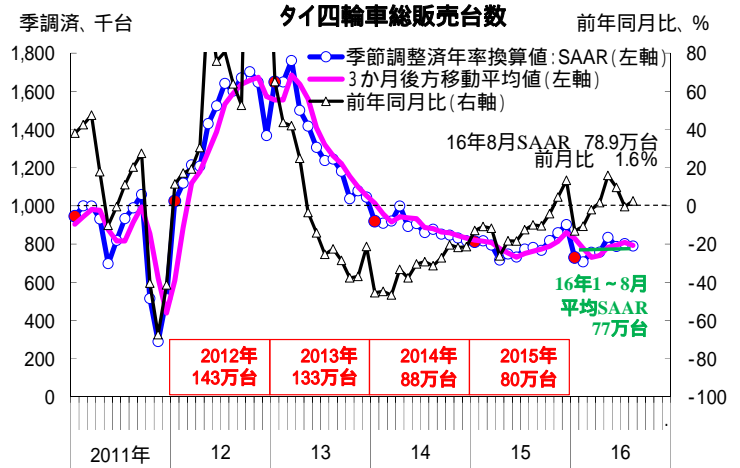
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) が3か月連続の減少



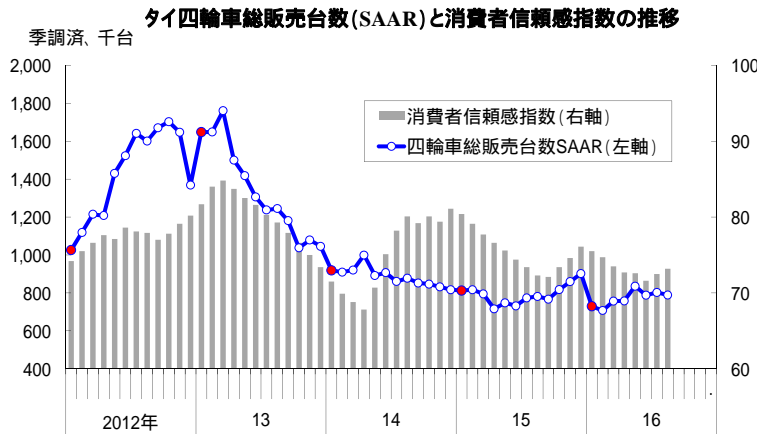
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は底堅く推移



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 消費者信頼感指数は2か月連続の上昇



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。